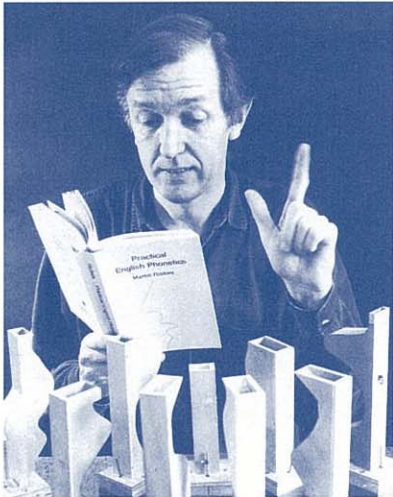


=比較芸術フォーラム=
ワークショップ「機械のための作曲」
会場：東京大学駒場博物館

- 大学院生対象ワークショップ・スケジュール
- 第1回 10月12日(金) 18:00~20:00 ガイダンス
- 第2回 10月27日(土) 10:00~12:00, 14:00~18:00
- 第3回 11月17日(土) 10:00~12:00, 14:00~18:00
- 第4回 12月 1日(土) 18:00~公開プレゼンテーション
- 第5回 12月 5日(水) 18:00~20:00

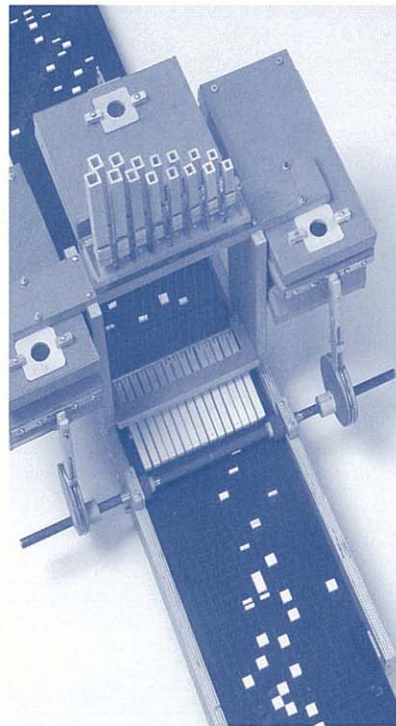
教員：マーティン・リッチズ Martin Riches



【プロフィール】

マーティン・リッチズ

Martin Riches (機械芸術アーティスト)
1942年、ワイト島生まれ。ベルリン在住イギリス人。ロンドンの著名な建築学校であるAAスクール(Architectural Association School of Architecture)で学び、最終学年にはアーキグラム(Archigram)の創立者ピーター・クック(Peter Cook)に師事した。1971年、いわゆるサウンド・アート分野で最初の作品を発表したが、1978年以後はもっぱらアーティストとして活動。「音楽機械」(music machines)の制作者として知られており、多くの作曲家が曲を提供している。機械とライブ演奏共演の作品もある。また、キネティック・アート(Kinetic Art)、「話す機械」(talking machines)、時計制作技術(horology)に関心を持っている。日本では1991年名古屋国際ビエンナーレ等に参加。1999年にICC ビエンナーレ '99(東京)で、Interactive Fieldを発表し、準グランプリを受賞している。



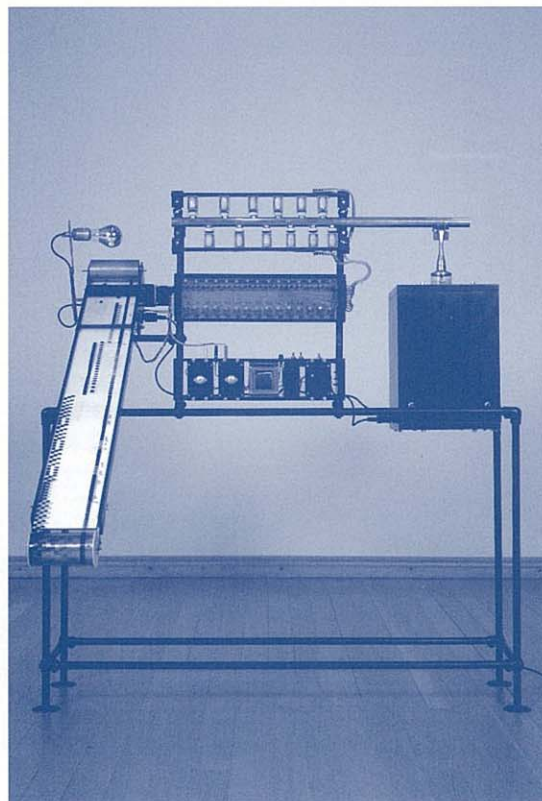
Martin Riches: Serinette Photo: Roman März



木ノ脇 道元 (フルート)



松山 元 (ピアノ)



Martin Riches: Flute Playing Machine Photo: Hermann Kiessling

【関連イベント】

● 特別展:

「機械じかけの音楽—Musica ex Machina」

東京大学駒場博物館

会期: 10月20日(土)~12月2日(日)

● 自動ピアノ演奏会:

10月31日18:30 開始

会場: 駒場博物館 2階

P.ヒンデミット、E.トッホ、C.ナンカロー、山本純ノ介、三輪真弘、H.ゴチェフスキの作品の自動演奏。

● 国際シンポジウム:

12月1日(土)・2日(日)

会場

12月1日(土) 東京大学駒場キャンパス/学際交流ホール

12月2日(日) 東京大学駒場キャンパス/18号館ホール

主催:

日本学術振興会科学研究費補助金研究プロジェクト
「音楽文化における機械の役割—その歴史・現状に関する多面的分析と展望」

(研究代表者: ヘルマン・ゴチェフスキ 東京大学准教授)

共催:

東京大学駒場博物館(大学院総合文化研究科 教養学部)

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部ピアノ委員会

